

関東学院大学 vs 法政大学

11月9日(日)
11:30K.O.
横須賀

苦しみながらも首位を守ってきた関学大と、ここでついに2位浮上した法大との大一番。勝てば自力で文句なく優勝と昇格を同時に決める関学大に対し、法大も勝てば得失点差で首位に立ち、神大・東洋大がともに敗れば昇格が決まる。なお、引き分けの場合は、神大・東洋大がともに引き分け以下の場合、両者の昇格が決まる。

関学大は前節、青学大に苦戦を強いられ、2-2でかろうじて勝点1をもぎ取った。お互いの良さを出し合う中で、15分に失ったボールを一気に得点につなげられ、追い付いての後半にはOKでまでも先行を許した。「前半飛ばし過ぎ、後半は相手にボールを動かされてしまった。判断ミスも多かった」(石村大監督)。シュートの少ない試合であったが、それでも89分にDF木村魁人(3年)が直接FKを決めた。勝てなかったが、粘りの同点劇は、自力での昇格決定に向けた大きな勝点1となった。「総理杯準優勝チームの胸を借りるつもりで頑張りたい」(石村監督)。大きな目標を手に行けるか。

対する法大もついに、勝てば優勝が見えてくるころまで来た。前節は2位の神大と対戦し、3-1という想定以上の快勝。FW安藤央(4年)を先発起用することで、「相手の背後を使って最終ラインを下げさせること

ができ、押し上げて得点につなげられた。パーフェクトに近い試合ができた」(長山一也監督)。90分の失点は反省点だが、30分、51分、79分と効果的に得点を重ねた攻撃力は頼もしい。今節も、早めに押し込むシーンを増やせるかどうか。優勝と、5年ぶりとなる1部復帰という「二兎」を手に入れるためには負けるられない。

<3回警告>萱沼優聖(関学大)、青島拓馬・相馬将夏・白石智之・田代雅也・山田将之(法大)
<前期の対戦>関学大2-1法大

関学大	法大
4. 久保	27. 山田
8. 普光院	6. 星
3. 原島	18. 萱沼
7. 太田	3. 宗近
1. 井田	5. 山口
23. 長谷川	11. 安藤
19. 山口	10. 高橋
9. 富樫	21. 富澤
16. 木村	25. 西室
2. 吉田	14. 白石
	2. 永戸

神奈川大学 vs 拓殖大学

11月9日(日)
13:50K.O.
横須賀

2位の座を明け渡してしまった神大と、東洋大の連勝を止めることで昇格への望みをかろうじて残した拓大との対戦。敗れば昇格の可能性が完全に潰えるのは拓大だが、神大も厳しい状況なのは同じ。しかも2人が出場停止という非常事態だ。前期は神大が大勝したが、拓大は前節4得点。昇格への執着を見せるのはどちらか。

神大は前節、法大に1-3で敗れ大事な試合を落としてしまった。「相手の方が出足が早かった。後手に回ってしまったのが敗因」(長谷川大コーチ)というように、法大がロングボールで背後を狙いにきた戦略に対して対応が遅れた。ボールを収められて波状攻撃を受け、前半1失点、後半2失点。得点は90分の1点にとどまった。「ボールに対する反応を早くすることと、奪ったボールに対してもう少し前線で人数をかけていきたい」(長谷川コーチ)。攻守の要であるFW長野祐太(4年)と前線の頑張りが目立っていたFW鈴木翔大(3年)の出場停止は痛い。皆でカバーし、ピンチを逃れられるか。

対する拓大は前節、6連勝と絶好調にあった東洋大の勢いを止め、4-2と快勝した。無得点での3連敗中という東洋大とは対照的な状況で臨んだ試合は、開始7分でPKを与える嫌な展開となったが、GK夏井智大(3年)

の好セーブで失点を防ぎ流れが変わった。35分には逆にPKを決め先制、43分・52分という良い時間帯で着実に追加点を奪った。「東洋大は巧みなボール回しをするチーム。しっかり走って早い段階でボールを奪えたのが良かった」(玉井朗監督)。上位を苦しめ、自らの可能性を残すために勝利をつかむことはできるか。

<出場停止>長野祐太・鈴木翔大(神大) / 3回警告: 芦野翔斗・高木利弥・武田将平(神大)、多田和明(拓大)
<前期の対戦>神大4-0拓大

神大	拓大
3. 高木	2. 谷川
11. 星	23. 郡司
4. 藤原	11. 西岡
16. 武田	6. 紙谷
1. 阿部	26. 小島
10. 伊東	12. 夏井
9. 郡司	
6. 前田	10. 柴田
29. 南	18. 河野
	17. 菊野
22. 伏木	7. 大森
2. 湯澤	13. 新山

* 予想布陣は直近の試合を参考に作成しています *

JR 東日本カップ 2014 第 88 回関東大学サッカーリーグ戦

if OFFICIAL MATCHDAY PROGRAM
Division2 2014-NO.21

編集:五味亜矢子 発行:(一財)関東大学サッカー連盟 協力:関東大学サッカーサポーターズクラブ



法大2位浮上、今節関学大と首位決戦!

JR 東日本カップ 2014 第 88 回関東大学サッカーリーグ戦・2部リーグは今節、いよいよ昇格・優勝争いの天王山を迎える。第20節は劇的な幕切れの試合が続いた。まず昇格争いは、関学大が青学大に89分に追い付く引き分け、法大が神大を3-1で破り2位浮上、6連勝の東洋大は拓大に2-4で敗れた。一方、産能大が日大に85・86分の得点で逆転勝利したが、平国大は東学大に0-2、東農大も日体大に1-2で敗れ、残留争いは再び大混戦となってきた。

前節かろうじて勝点1を得た首位・関学大と、昇格圏に浮上した法大の天王山では、関学大が勝てば優勝と初の1部昇格が決まり、

得点ランキング	アシストランキング
11: 遊馬 将也 (東洋大)	9: 伊東 純也 (神大)
星子 直哉 (平国大)	8: 仙頭 啓矢 (東洋大)
10: 萱沼 優聖 (関学大)	大森 勇希 (拓大)
8: 星 広太 (神大)	6: 恵 龍太郎 (青学大)
伊東 純也 (")	5: 全5名

法大が勝てば首位が逆転。その場合、神大と東洋大がともに敗れるようなことがあると、関学大と法大の昇格が一気に決まる。昇格チームが誕生するか、それともすべて最終節に持ち越すのか。大注目の2日間だ!

JR 東日本カップ 2014 第 88 回関東大学サッカーリーグ戦 星取表

(第20節終了時。上段が前期の対戦結果)

順位	2部	関学大	法大	神大	東洋大	青学大	拓大	日体大	東学大	日大	東農大	平国大	産能大	勝数	負数	分数	得点	失点	得失	勝点
1	関学大		201 11/9	302 11/15	102 200	104 222	200 100	222 020	300 121	402 100	201 201	500 001	323 100	12	3	5	38	22	16	41
2	法大	102 横須賀		103 301	200 203	301 301	100 100	11/15 11/15	301 201	201 300	300 100	102 200	200	11	4	5	38	22	16	38
3	神大	203 日体大G	301 103		001 102	222 302	400 11/9	020 301	100 121	100 302	300 121	503 102	400 100	11	5	4	42	25	17	37
4	東洋大	201 002	002 302	100 201		121 11/9	002 204	102 301	001 11/15	001 200	100 300	302 200	400 401	12	7	1	34	23	11	37
5	青学大	401 222	222 103	222 203	121 夢の鳥		323 11/15	200 201	002 100	201 103	300 201	121 100	001 100	9	5	6	33	27	6	33
6	拓大	002 001	003 001	004 横須賀	200 402	323 産能大G		200 201	003 401	200 020	100 121	500 200	100 001	10	7	3	29	23	6	33
7	日体大	222 020	020 日体大G	020 103	201 103	002 102	002		100 002	020 11/8	100 201	500 301	100 201	7	7	6	23	25	-2	27
8	東学大	003 121	002 103	103 121	100 東学大G	200 001	300 104	001 200		002 103	001 121	302 200	121 11/8	6	10	4	21	29	-8	22
9	日大	204 001	424 102	001 203	100 002	102 301	002 020	020 江戸陸	200 301		121 11/15	002 001	300 102	5	11	4	24	29	-5	19
10	東農大	102 102	001 003	003 121	001 003	003 102	001 121	121 102	121 東学大G	121 100	121 11/9	500 301	100	4	11	5	19	29	-10	17
11	平国大	005 100	020 201	305 201	203 002	121 001	005 002	102 103	203 002	200 100	001 たつこの	406 11/15	100	5	13	2	22	43	-21	17
12	産能大	323 001	222 002	004 001	004 104	100 001	001 100	104 102	121 たつこの	121 201	003 103	604 産能大G	100	4	13	3	20	46	-26	15

体育会学生のための
リクナビ就職エージェント

戦いの中に、成長がある。

部活と就活にエールを送る! 体育会学生のための「リクナビ就職エージェント」

リクナビ 体育会

RECRUIT

東京学芸大学 vs 産業能率大学

11月8日(土)
11:30K.O.
たつこの

8位に浮上した東学大と、降格決定の危機を逆転勝利で回避した産能大との対戦。東学大は引き分け以上で残留を決定づける。産能大は厳しい状況にあるのは変わらず、引き分け以下だと、東農大―平国大が引き分け以外でさらに日大が引き分け以上の場合に降格が決まる。前節のような粘りを見せられるか、注目だ。

東学大は前節、平国大との勝点2差での戦いを2-0で制した。接戦が予想された試合だったが、9分に相手GKのもたつきを突いた先制点と14分に奪ったPKで、序盤で流れが決まった。その後は相手の動きが上がってこなかったこともあり、東学大らしいボール回しで試合を支配。追加点を奪えなかったことが課題ではあるが、結果が重要だけにリードを確実に守った。「ようやく内容が結果につながってよかった。ボールを持ち過ぎずどんどん動かすようにトレーニングしてきたことが出せた」(榎山康監督)。連勝で残留を決められるか。

対する産能大は前節、日大との対戦で2-1の勝利。85・86分の連続得点での劇的な逆転に、加藤望監督も「応援も含め全員が諦めずできたことがよかった」と褒めたが、一方で「自分たちからアクションを起こすことができないうちに失点し、やっと“やらなければ”とい

う雰囲気になる」と反省点も。8分でのCKからの失点は、勢いのあるチームならば一気に流れを持っていかれてもおかしくない。致命的な失点とならないよう、試合の入り方には注意したい。85分はループシュート、86分はゴール前での落ち着いたパスからの得点と、力はあることを見つけた。あと2試合、どれだけ粘れるか。

<3回警告>冨澤右京・五十嵐亘・菅佑也(東学大)、楠元秀真・見留耀太・須永亨(産能大)

<前期の対戦>東学大1-1産能大

東学大		産能大	
2. 吉田	16. 冨澤	9. 越智	15. 杉崎
3. 安藤	7. 平田	32. 木下	19. 石渡
1. 須賀	8. 菅	10. 見留	8. 浜下
4. 脇本	11. 五十嵐	26. 桜井	4. 楠元
5. 廣木	18. 久保	12. 齋藤	6. 遠藤
		1. 森谷	

青山学院大学 vs 東洋大学

11月9日(日)
11:30K.O.
夢の島

前節、惜しくも勝点3を逃した5位・青学大と、連敗を止められ痛い1敗を喫した4位・東洋大との対戦。どちらも昇格へのわずかな可能性を残すためには勝つしかない。他チームの状況にもよるが、最終節まで希望を持って戦えるのはどちらか。

青学大は前節、首位の関学大と対戦して2-2で引き分けた。シュート数は12-6、常に先行した試合展開だっただけに、89分に直接FKで奪われた同点弾は1点以上に重いものとなってしまった。「全体を通してゴールに迫るプレーは表現できたが、メンタリティや技術の差で引き分けに持ち込まれたと思う」(宮崎純一監督)。お互いに良さを出し合う均衡した好ゲームだったが、最後に与えたFKが痛かった。昇格争いは事実上、厳しくなったが、最終節まで持ち込まれれば複雑な混戦状態となる可能性がある。「常にゴールを目指す姿勢や身体を張った守備という課題を改善したい」(宮崎監督)。

一方の東洋大は前節、拓大に2-4で敗れ、ついに連勝は6でストップしてしまった。「どちらに転がってもおかしくない試合だったが、些細なところでこのような結果になった」と古川毅監督が話したように、立ち上がりのPK失敗と35分のPKによる失点が試合の流れを決

めた。4失点というのは、反撃のため前がかりになった副作用でもあるが、先に3失点したのは反省点だろう。1点反撃しても、相手の焦りを誘うには至らなかった。ただし、90+2分の得点など最後まで反撃したことは今節につながるだろう。とにかく勝つしかないこの試合。もう一度、夢を引き寄せることはできるか。

<3回警告>荒木大吾・諸井孝太(青学大)、小山大貴・遊馬将也・仙頭啓矢・田口慎太郎(東洋大)

<前期の対戦>青学大1-1東洋大

青学大		東洋大	
16. 諸井	7. 荒木	8. 小島	16. 石坂
25. 水島	29. 上村	10. 平石	4. 郡司
1. 高橋	8. 伊藤	7. 斉藤	1. 浅沼
	10. 関谷	15. 小山	
5. 京谷	18. 山田	18. 遊馬	5. 田口
6. 服部	11. 恵	20. 仙頭	3. 筑井

日本体育大学 vs 日本大学

11月8日(土)
11:30K.O.
江戸陸

7位の日体大と、9位に後退してしまった日大との対戦。昇格も降格も関係なくなった日体大に対し、6連敗中の日大は残留に黄信号が点滅してきた。日大が勝利し、東農大―平国大が引き分け以外だった場合には残留が決定するが、第13節以来の勝利を手に行けるか。

日体大は前節、10位の東農大と対戦し、2-1と逆転勝利を飾った。残留争いの渦中にある東農大の気迫と勢いに押され、序盤は球際の戦いで後手を踏むこともあったが、ゴール前はしっかり対応。55分にCKから先制点を許したが、63分に同点、そして79分の2人同時の選手交代後、81分に逆転に成功した。「ケアしていたCKの失点は仕方がないにしても、それで崩れなかった。(2人交代で)攻めに行くというメッセージを生かしてくれた」(倉又寿雄監督)。2得点につながったDF高野遼(2年)からのサイド攻撃は、何度もチャンスを出していた。可能性のある限り上位を目指したい。

対する日大は前節、最下位の産能大に1-2と逆転負けを喫した。試合開始早々の8分でCKから先制点を奪い、リードを保ったまま逃げ切りたところだったが、85分と86分に得点を許してしまった。「立ち上がりは良かったが、自分たちのペースで進めながらチャンスを

決め切ることができなかった。立ち位置を考えると勝点0だったのは厳しい」と川津博一監督が話したように、最悪の結果となってしまった。これで6連敗、引き分けを含むと7試合勝利がない。しかし、得点・アシストランキングに複数選手が顔を並べているように、リズムが合えば得点力はある。メンタルコントロールも重要だ。

<3回警告>ンドカ ポニフェイス(日体大)、成瀬琢斗(日大)

<前期の対戦>日体大0-0日大

日体大		日大	
2. 高野	10. 阿部	7. 廣田	29. 高田
29. ンドカ	27. 岩城	3. 奥村	19. 高山
1. 伊藤	23. 小泉	13. 中野	21. 小淵
	25. 輪笠	8. 床井	10. 小林
20. 高野	7. 長谷川	14. 成瀬	30. 梓
6. 赤平	26. 福田	2. 長谷川	

東京農業大学 vs 平成国際大学

11月9日(日)
11:30K.O.
たつこの

10位・東農大と11位・平国大の降格ラインをはさんだ直接対決。同勝点で得失点差では東農大がだいぶ有利な状態だが、直接対決のためどちらかが勝てば、産能大が引き分け以下だった場合に残留が決まる。まさに、天国と地獄の剣ヶ峰だ。熱い戦いに期待したい。

東農大は前節、日体大に1-2と逆転負けを喫した。序盤は、後期初勝利を受けた勢いそのままに相手陣内を攻め立てたが、精度に欠けて無得点。後半に入り55分、CKで見事なサインプレーを決めて先制点を奪った。しかし、その8分後に同点弾を許し、81分には逆転弾。交代選手への対応と、サイドを使った速い攻撃を止めることができなかった。「勝点3を取るのがこんなに難しいかと感じた。しっかり前を向いてゴールに向かうという明るい面は見えてきている」(秋吉保浩監督)。思い切りの良さが戻ってきたのは光明だけに、直接対決で持てる力と意地を見せられるかどうか。

一方の平国大は前節、東学大に0-2と完敗してしまっただけに、再び降格圏の脱出を目指したが、9分にGKのボール処理のもたつきを突かれ先制点を許し、さらに14分にはPKを与え、試合開始早々に2点のビハインドを背負う厳しい戦いを余儀なくされた。その事実以上に、

失点の仕方によって意気消沈してしまった感が否めなかった。「自分たちのミスで失点して、もったいなかった。全くウチらしくなかった」(西川誠太監督)。この2年、後がなくなった状況では強さを発揮してきた。ここから逆襲なるか。

<3回警告>加藤聖哉・小田原貴・金裕志・村山翔・佐々木翼・櫻岡徹也・榊原彰(東農大)、尾林一樹・千葉真史・小松崎雄太(平国大)

<前期の対戦>東農大1-0平国大

東農大		平国大	
3. 加藤	8. 佐々木	3. 竹内	5. 小松崎
5. 櫻岡	10. 浜田	9. 星子	22. 横瀬
21. 松尾	14. 石川	10. 堀越	6. 鎌田
	12. 榊原	1. 荒川	
15. 小田原	25. 金	7. 尾林	
	13. 岡庭	20. 村川	2. 増田
17. 徳田		25. 玉田	